

LEADERS NOW!



▲関大万博フェスタチームのメンバー：写真左から北村さん、川上さん（リーダー）、黒木さん



▲決起集会



学生ならではの視点を生かし、 大阪・関西万博の魅力を “関大万博部”が発信 ——「万博の主役は関大生だ！」学生主体で盛り上げる

●関大万博部

社会学部 1 年次生

川上 拓真 さん（愛媛県立西条高等学校）

社会学部 1 年次生

北村 胡音 さん（大阪府立三島高等学校）

法学部 1 年次生

黒木 望未 さん（岡山県立岡山朝日高等学校）

1970年に大阪府吹田市で開催されたアジア初の日本万国博覧会、通称Expo'70からはや55年。2025年ついに万博が大阪の地へ帰ってくる。2005年の愛・地球博からは20年ぶりの日本開催となる大阪・関西万博だ。4月13日の開幕が目前に迫る中、万博の面白さや魅力を学生目線で伝える「関大万博部」の活動も一気に活気づいている。次々に迎える新たなイベントへ向けて日々忙しく準備に奔走する彼らに話を聞いた。

●大阪・関西万博のワクワク感を地元・関大から発信

いよいよ4月に開幕する大阪・関西万博の開催に向けて、本学では2年前に「関大万博部」なる学生コミュニティが発足した。「地元大阪で行われる万博の面白さやワクワク感を、関大から発信していく学生団体です。9つのプロジェクトに分かれていろいろな活動を行っています」と紹介してくれたのは、関大万博フェスタチームのリーダーを務める川上さん。

関大万博部の中でイベントを企画し、他チームのまとめ役を担当するのが関大万博フェスタチーム。チームメンバー17人は全員が1年次生だが、入部した理由はさまざま。

「中学高校と生徒会に所属していて、自分たちで体育祭や文化祭を運営することの楽しさを実感しました。同じように自分たちの力でさまざまなイベントを考えて形にしていこうという関大万博部がとても楽しそうに思えたので、ぜひ参加したくて」（黒木さん）

「私は以前から万博にとっても興味が有り、なんとしてでも万博にかかわりたいという思いを持っていましたが、ボランティアは

抽選になる可能性がありました。そんな中、関大万博部があると知り、すぐに入部を決めました」（北村さん）

●初イベントの成功に充実感と手応え

2024年12月15日に千里山キャンパスで開催された『まちFUNまつり in 関西大学2024』の中では、自分たちで一から企画考案した初イベントの「関大万博プレフェスタ」を行った。

これからの未来を担っていく小さな子どもたちが、自ら主体的に動けるようなイベントとして地域の住民を対象に実施。「万博謎解きクイズラリー」と題し、関大万博部内の各チームが考えたブースをクイズに挑戦しながら巡るという企画を作り上げ、イベント全体の運営を行った。

在学中の留学生たちが自国の文化や食べ物などを紹介する「ミニ外国パビリオン」や、子どもがおすすめのジュースを提供しながら大人の悩み相談を受ける「こどもBar」のほか、クラフトコーラを題材にしたワークショップや非常食アレンジ弁当の無料試食など、普段の活動を生かしたユニークなブースを各所に設け、来場者は7,500人を超え大成功。

「クイズラリーのポイント振り分けやブースの配置など、全体設計を考えるには他チームの内容や進捗をすべて把握する必要があります。これが思いの外苦労しましたね」（川上さん）、「自分が所属するフェスタチームメンバーのことだけでなく、140人いる関大万博部全体のシフトなどを調整するのが大変でした」（黒木さん）と初イベントだっただけに苦心したところや反省点も多かった。

しかしそれ以上に、当日はたくさんの子どもの無邪気な笑顔に数多く触れることができ、やってよかった！楽しかった！とイベント運営の醍醐味を感じられたようだ。

なかでも、クイズラリーには手応えも。「ゲーム感覚で遊びながら万博や私たちの活動を知ってもらえるとても良い機会になったと思います。今後も楽しみながら理解を深めてもらえる企画を、もっと考えられたらいいなとやる気が出ました」（北村さん）



▲こどもBar



▲ミニ外国パビリオン



▲万博謎解きクイズラリー

●まだまだ盛り上げる『関大万博Weeks』

大阪・関西万博は4月13日に開幕するが、万博部が手掛ける“関大版万博”イベント『関大万博Weeks』も、今後さまざまななかたちで意欲的に展開される。

メインイベントとなる『関大万博フェスタ』は、6月30日から7月6日にかけて千里山キャンパスで開催する予定だ。そのほか



▲まちFUNまつりin関西大学2024特別企画「関大万博プレフェスタ」の参加者

にも、4月6日の校友イベントや5月と6月に開催される高槻・高槻ミュージ・堺キャンパスでの各キャンパス祭などにも万博PRブースを出展。万博会期中は毎月のようにイベントを計画し、関大生を中心に、教職員、地域住民など、より多くの人々に万博のワクワクを届けていく。

「学生が興味を持てる内容を考えることが、難しくもあり逆に楽しみでもあります。同じ学生だからできること、学生の視点で面白いことを考えていきたい。万博部の活動で学んだり吸収したものを発揮できるよう頑張りたいですね」（黒木さん）。

日々やりがいを感じられる万博部の活動を通じて彼らの世界は格段に広がり、有意義な日々を送ることができているようだ。「最初は僕の活動にあまり興味が無さそうだった両親が、今では「今日は何したん？」「なんか万博のことやったんやろ？」と徐々に万博に興味を持ち始めたんです。前売りチケットももう買ったと（笑）。自分が参加する活動で、こうやって周囲に万博への期待や良さが伝わっているんだなとやりがいを感じたし、うれしくなりました」（川上さん）

「万博にかかわっている方々にお会いできて、未来への熱い思いを知ることができたのもこの活動だったからこそ。シンプルに万博とかかわりたいと思って入部したけれど、それ以上のことを学べる機会がこれまでに数多くありました。そのすべてが今後のイベントに役立てられると思います」（北村さん）

大阪・関西万博はもちろんのこと、関大万博部が手掛ける今後のイベントにも期待が高まる。

関大万博部

■2025年大阪・関西万博に向け、2023年に発足した大学公認の学生コミュニティ「関大万博部」。9つのプロジェクトに分かれており、所属する学生はおおよそ140人。「私たちがやらなきゃ誰がやる!」「1人でも多くの人に万博のワクワク感を伝えたい!」。そんな思いを持つ関大生たちが仲間となってSDGs推進など日々の学びをベースとし、それぞれが「輝く」ことができるユニークな企画づくりに挑戦中。絵文字だけを使ったコミュニケーションツールで言語の壁を乗り越える「エモジケーション」プロジェクトや、賞味期限が迫る非常食で防災啓発に取り組む「非常食アレンジ弁当」プロジェクト、世界中で愛されるクラフトコーラやビールで人と人とのつながりを生む「開杯」プロジェクトなど、数々の企画を推進し、万博開催期間中のパビリオンへの参画や学内外での独自の万博機運醸成イベントの実施などを目標に日々活動している。



▲関大万博部 Instagram



▲関大万博部ウェブサイト